

館林市立第五小学校 学校評価一覧表① (様式1)

A:十分に達成できた B:達成できた(具体的数値項目) C:もう少しで達成できた D:達成できなかった

令和元年7月実施

羅 針 盤			方策 ※赤字は、昨年度からの変更点	アンケート結果			自己評価①	
評価対象	評価項目	具体的数値項目		教師	児童	保護者	自己評価	改善策
I 保護者との連携	1 学校や子どもの様子を保護者に伝え、理解を得ていますか。	1 「きめ細かく伝えている」と答える保護者・教職員が80%以上である。	○学校便りやホームページ、保健便り、図書便り、学年便り、電話、連絡帳等を通し、学校の方針や諸行事、学年、学級の様子をきめ細かく伝える。 ○学校評価(「かけはしアンケート」)の結果と改善策を公開する。 ○PTA総会や学年・学級懇談会などの際に、積極的に学校の方針を伝える。	A		A	A	
	2 保護者は学校の諸行事に参加していますか。	2 「授業参観や懇談会に参加するように努めている」と答える保護者が80%以上である。「保護者が参加しやすい環境を整えている」と答える教職員が80%以上である。	○学校公開をはじめ、音楽集会、運動会や持久走大会などの学校行事、6年生を送る会等、児童の活躍する場を積極的に公開する。 ○「親子ふれ合い活動」を学年行事として全学年実施する。 ○保護者が学年・学級の様子を理解したり協力したりしやすいよう、懇談会を工夫する。	A		A	A	
	3 保護者は、学校に連絡や相談がしやすいと思っていますか。	3 「相談しやすい」「意思疎通を積極的に行っている」と答える保護者・教職員が80%以上である。	○スクールカウンセラー等、校内教育相談体制を整え、保護者に周知し活用を促す。 ○電話や連絡帳を活用して、個別の支援や連絡をこまめに行う。	A		A	A	
II 確かな学力	4 児童は、授業が分かり、満足感や達成感を味わっていますか。	4 「授業がわかる」「授業が分かっている」と答える児童・保護者・教職員が80%以上である。	○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進するとともに、「根拠と共に自分の考えをもち、表現できる子どもの育成」を図る。 ○専門教科の教師による学力向上と生徒指導の充実のため、高学年において教科担当制を取り入れるとともに、3年～6年の理科、2年～6年の音楽においては専科教員が担当する。	B	A	B	B	
	5 児童に、教科等の基礎・基本が確実に身に付いていますか。	5 「児童に、教科等の基礎・基本が確実に身に付いている」と答える保護者・教職員が80%以上である。(単元末テスト80%以上)	○基礎・基本の定着のため、「はなまる算数」を給食後の帯時間(10分間)に週3日(月・火・木)位置付け、計画的・継続的に実施する。 ○5年生以上の算数において、担任、学力向上特配、小中連携特配による習熟度別指導を計画的に推進する。 ○基礎・基本の確実な習得を図るため、2年生以上で夏休み学習会を行う。 ○放課後、教材研究の時間・補習の時間を確保する。(水・金)	B		B	B	
	6 家庭で宿題などの学習や読書をする習慣が児童に身に付いていますか。	6 「家庭で学年×10分の宿題などの勉強や読書をしている」と答える児童が80%以上である。 「進んで学習や読書をする習慣が身に付いている」と答える保護者や教職員が80%以上である。	○漢字、計算、音読など3つの宿題を、全学年毎日必ず出すことを原則とする。 ○家庭学習の習慣化のために「家庭学習チェック表」を活用し、毎月1週間程度のチェック期間を設けるとともに、チェック表に「家庭学習のポイント」(「毎日決めた時間に」<少しでもいいから毎日>「宿題、そして自主学習」)及び「おすすめの家庭学習の内容」を具体的に示すことにより、家庭とも連携し計画的に学習できるようにする。 ○家庭学習の充実のため、「アウトメディア週間」を家庭学習チェック期間と連動して実施する。	B	B	B	B	
III 豊かな心	7 さわやかな挨拶、返事、相手を思いやる言葉遣いができる児童が育っていますか。	7 「自分から進んで挨拶したり、元気に返事をしたりしている」と答える児童が80%以上である。「挨拶、返事、丁寧な言葉遣いができている」と答える保護者・教職員が80%以上である。	○児童会代表委員が中心となって、「あいさつ運動」を行ったり、あいさつ名人を表彰したりすることを通して、積極的に挨拶できる児童を育成する。 ○学校生活全般において、「挨拶や返事」「丁寧な言葉遣い」等の指導を行い、基本的な生活習慣を身に付けさせる。	C	A	B	B	○全校集会の時に、児童会代表委員会の児童が体育館入り口に立って「あいさつ運動」を行う。 ○児童会代表委員会の「あいさつ運動」に合わせて、毎回1クラスから2名ずつ「あいさつ名人」に選ばれた児童が、たすきをかけて「あいさつ運動」を行う。名人になった児童には、「あいさつ名人認定証」を渡す。 ○校内の階段に、挨拶の言葉を日本語と英語で書いた掲示板を貼るなど、挨拶への親しみをもたせ、教師と児童、友達同士で出会ったときに気軽に挨拶ができる雰囲気づくりを醸成する。
	8 いじめのない温かな人間関係が育っていますか。	8 「友達間で、いじめのない温かい人間関係が育っている」と答える保護者・教職員が85%以上である。「友達にやさしくしている」と答える児童が85%以上である。	○自己有用感を獲得できる特別活動を工夫する。 ○「学校生活アンケート」を活用し、小さな出来事も見逃さないよう、日常の観察をしっかり行い、毅然とした態度で指導を行う。 ○児童会代表委員を中心に児童主体の「いじめ防止運動」を展開する。 ○日常生活の中で意図的に自己有用感をはぐくむ場面や環境を設定する。 ○授業や集団活動を通して、「ほめる」「励ます」「認める」などの肯定的な評価を積極的に行う。	A	A	A	A	

館林市立第五小学校 学校評価一覧表① (様式1)

羅 針 盤			方 策	アンケート結果			自己評価①	
評価対象	評価項目	具体的数値項目		教師	児童	保護者	自己評価	改善策
	9 学校や家庭の決まりを守ろうとする児童が育っていますか。	9 「決まりを守っている」と答える児童が85%以上である。「家庭の決まりを守って生活できている」「決まりを守ろうとする児童が育っている」と答える保護者・教職員が85%以上である。	○「五小のきまり」を改善・充実し、具体的指導に活かせるようにする。 ○「ぐんまの子どものためのルールブック50」(群馬県教育委員会)を効果的に活用する。 ○児童会代表委員による「生活目標」と関連させた継続した指導と適切な評価を行う。 ○家庭での指導とも合わせ、決まりを守る重要性を粘り強く指導する。	A	A	B	A	
IV 健康・体力	10 規則正しい生活をしている児童が育っていますか。	10 「朝食や夕食を毎日きちんと食べ、早寝早起きしている」と答える児童や保護者が85%以上である。「規則正しい生活をしている児童が育っている」と答える教職員が85%以上である。	○「早寝早起き朝ご飯」について家庭への啓発活動を行う。 ○保健指導、学級指導の中で規則正しい生活の大切さを指導していく。	A	B	A	A	○週1回行われる体育集会では、サーキット運動や短距離走を多く取り入れることによって運動する機会を増やし、体力向上を促進する。また、異学年と一緒に運動したり、音楽をかけて行ったりすることで、楽しい雰囲気の中で運動できるようにする。 ○体カテストや水泳記録会、陸上記録会などの体育的行事の結果を体育館通路に掲示し、児童が目標をもって運動したり、運動に関心をもったりできるようにする。
	11 日常的に運動に取り組む児童が育っていますか。	11 「週3日以上体を動かして遊んだり、運動したりしている」と答える保護者・児童が80%である。「日常的に運動に取り組む児童が育っている」と答える教職員が80%以上である。	○休み時間などでは、外遊び、集団遊びを推奨する。 ○体育や体育的活動(運動会、持久走大会、駅伝大会、なわとび大会等)と連携させた取組を行うとともに、家庭でも体を動かす大切さを伝える。 ○金曜日は全学年が外遊びをするよう指導する。 ○めあてをもたせ、体力づくりに取り組むよう指導する。	B	B	B	B	
V 安全確保・施設設備	12 学校は安全管理に努めていますか。	12 「安全管理に努めている」と答える保護者・教職員が90%以上である。	○火災、地震、不審者等、災害時の避難を想定した訓練を学期1回以上実施し、危機管理マニュアルの見直しを行う。 ○学級活動などで、危機回避能力を身に付けさせる指導を行う。 ○引き渡し訓練を年1回行う。 ○定期的な安全点検を行い、発見したらすぐに連絡、対応を必ず取る。 ○下校時における安全対策のため、水金校時を取り入れる。	A		A	A	
	13 学校・家庭・地域が連携して安全対策に努めていますか。	13 「道路での正しい自転車の乗り方や歩き方ができている」と答える児童や児童・保護者・教職員が90%以上である。	○1年生の横断歩道の渡り方指導、3年生の自転車教室など、正しい歩行、自転車の乗り方の指導を行うとともに、ヘルメットの着用を継続して指導する。 ○通学路の安全点検を一斉下校を通して、学期に1回行う。 ○危険情報があった時には、その都度すみやかに指導を行うとともに、不審者情報について緊急性がある場合は、緊急メール配信システムを活用して、全家庭に情報を提供する。	B	A	B	B	
VI 進路・生き方	14 児童が自分の将来の夢や希望を持っていますか。	14 「将来の夢や希望について親子で話題にしている」「将来の夢や希望をもってがんばっている」と答える保護者・児童が80%以上である。「児童に将来の夢や希望をもたせるようにしている」と答える教職員が80%以上である。	○児童が自分のよさについて考えたり、意識したりできる機会を、日々の指導や道徳、学級活動の授業の中に位置付ける。 ○学ぶこと、働くことの意義や将来に対する夢や希望について話し合う機会を、学級活動や日々の指導に取り入れていく。 ○「夢カード」の活用について、各学年で実施の仕方を工夫し、親子で将来の夢や希望について話し合える機会をもてるようにする。	B	A	B	B	
VIII 組織運営	15 学校の教育目標の達成に向け、管理職・教職員が一体となって努力していますか。	15 「学校経営方針を受けて、創意工夫し指導するとともに、自己申告書の達成に向けて日々の実践に励んでいる」と答える教職員が90%以上である。	○年度当初、校長が示した重点目標を再確認し、職員会議等を通じて呼びかけ、職員の実践ができるように努める。 ○年間指導計画に基づく授業を週案等に記録するとともに、各時間、A・B・Cの自己評価を行い、評価と指導の一体化が図れるようにする。 ○自己申告書の具現化と継続的な実践と反省・改善を行う。	A			A	
	16 気軽に相談し合える職場の人間関係ができていますか。	16 「職場の人間関係ができてい」と答える教職員が80%以上である。	○挨拶だけでなく、お互いに声をかけ、職員間の輪をつくる。 ○長所も短所もお互いに受け入れ、存在を認めて生き活きと楽しくかわれるようにする。	A			A	